

ミーアキヤットの人工哺育個体と自然哺育個体の成長比較

○松元悠一郎，鈴木大河，桜井普子，前谷史恵，伊藤綾夏
(鹿児島市平川動物公園)

鹿児島市平川動物公園ではミーアキヤット3頭(雄4歳、雌7歳と5歳)を飼育しており、雌5歳が2018年2月と同9月に繁殖している。2月出生の個体は、出産翌日に元気消失が見られたため人工哺育に切り替えた。9月出生の個体は出産後、自然哺育にて、父親と2月出生の雄とともに群れの中で現在も生育中である。人工哺育個体(以下人工個体)と自然哺育個体(以下自然個体)共に、ほぼ毎日の状態確認および体重測定等の成育状況を記録することができたため、その成長について比較を行った。

7日齢体重については、人工個体が47g、自然個体が69gであった。開眼の確認は、人工個体が12日齢、自然個体が10日齢であった。授乳(またはミルク)を最後に確認したのは、人工個体は47日齢、自然個体は49日齢であった。ズーフードソーセージやキャベツなど採食を確認したのは、人工個体が21日齢から、自然個体が22日齢からであった。1週間毎の増体率は、人工個体が2週齢で40.6%、3週齢で11.5%であったのに対し、自然個体はそれぞれ58.0%、26.6%と人工個体に比べ高い数値であった。また、3週齢から7週齢までの1週間毎の増体率は、人工個体が増加傾向(平均27.5%)であったのに対し、自然個体は減少傾向(平均11.4%)であった。

以上のことから、人工個体と自然個体の間で外貌変化や授乳(またはミルク)期間、採食開始時期に関して大きな差は見られなかったものの、環境要因や社会的要因によって成長に差が見られることが示唆された。今後は野生下での本種が、ヘルパー個体を含む群れの規模が仔の成長に寄与していると推察されていることから、飼育下においても群れの規模や産出仔数などが仔の成長に影響しているかを検討していきたい。